



藤沢久美

そこが聞きたい

Kumi Fujisawa_Soko ga kikitai

Vol.

07

システムトレードファンド 長期の資産形成に必要?



藤沢久美
ソフィアバンク
副代表

大学卒業後、国内外の投信運用会社を経て日本初の投信評価会社を企業。'00年ソフィアバンク副代表。社会企業家フォーラム副代表、法政大学専門職大学院客員教授も兼務。



竹村尚子
ムーンライト・
キャピタル
代表取締役社長

20代半ばから海外でファンドマネジャーとして活躍。'01年フォーブス誌「世界のファンドマネジャートップ20」に選ばれる。'03年ムーンライトキャピタル設立。

Jyoshiki06_Kumi Fujisawa x Naoko Takemura

藤沢 竹村さんは、米フォーブス誌で「世界のファンドマネジャートップ20」に選出されたこともあるカリスマファンドマネジャーです。現在は、日本でヘッジファンド会社を運営されています。

2月に個人向けに発売した「ムーンライト・エイドスファンド」は非常にユニークな商品ですね。

竹村 これはコンピュータのプログラムで売買を行う「システム

トレード」を活用したファンドです。買いだけでなく、売りから入るので、どんな相場でも利益を狙えます。

藤沢 どのように売買を行うのですか。

竹村 このシステムは短期トレードに特化しています。簡単にいえば、常勝のトレーダーが使っているテクニクをシステム化したようなイメージです。

18種類のストラテジー（売買ルール）があり、それぞれが買いや売りのシグナルを出します。その上にそれらを統括するシステムがあって、「今の相場はどのストラテジーが適しているか、どのストラテジーにどれぐらい資金配分するか」と決定するわけです。ここに人間の判断は一切入りません。

藤沢 過去の値動きなどを参考に売買するのですか。

竹村 このモデルは、現在の需給帯と価格モメンタムを分析するモデルです。その時々需給帯やモメンタムを分析して、相場がどちらに動こうとしているかを判断します。ミクロ分析もマクロ分析もチャート分析もしない点が新しいところです。

藤沢 なるほど。過去のトレンドではなく、その瞬間の関係性だけで売買するんですね。こうしたモデルを作ったのはなぜですか。

竹村 ここ3年ぐらいの間に、世の中がガラッと変わったと思うんです。何が起ころるか分からない時代になって、リスクを取れなくなりました。だから、徹底的にリスクを排除した「リスク低減型」のファンドが必要だと考えたんです。

私たちが実現したかったことは二つあって、一つは、どんな相場

でもほとんど値下がりしないこと。エイドスファンドの設定来の1日の最大下落幅は0.5%以下です。値動きが少ないのである意味退屈かもしれませんが、ほとんど下げずにじわじわと殖えていく設計になっています。（右グラフ参照）

藤沢 ヘッジファンドというハイルスクのイメージですが、面白いですね。

竹村 そこを覆して、年金運用よりもリスクを取らないという商品

エイドスファンドの長期シミュレーション



(注)'88年9月～'09年10月。EIDOSモデルの月次収益率にNOMURA-BPI(総合、短期)指数の月次収益率の90%を加算して算出。

Twitterに届いた質問に答えます！
対談実況中継
on twitter



guestA

エイドモデルの過去のリスクリターンはどれくらいですか。



Naoko Takemura

リスクの少なさに対してリターンが高いのが特徴です。私募ファンドでの実績では、シャープレシオで5~6ぐらい。日本の長期国債よりも低リスクで、何倍ものリターンが出ています。



kumifujisawa

最近是一般でもシャープレシオで見る風潮が出てきましたね。シャープレシオで5~6はすごい成績！



Naoko Takemura

エイドモデル自体は自由にリスクリターンを設定できます。だから、もっとリスクを取ってリターンを高めた商品も作れるんですよ。



guestB

エコファンドに対する評価を教えてください。



Naoko Takemura

エコや新興国は、世界的に年金が組み入れを増やす傾向があります。まだまだ伸びると思います。ただ、新興国こそ、専門家に安全かつ高利回りの運用をやってもらわないといけない。



kumifujisawa

新興国ファンドなら何でも良いわけではなく、リスク管理、投資ノウハウが必要ということですね。

+ フォローする

<http://twitter.com/kumifujisawa>



藤沢久美の「そこが聞きたい」では、対談中に随時ツイッターで質問を受け付けています。面白い質問があれば、対談中にリアルタイムで回答することも。いつ、誰と対談があるかについても、ツイッターで告知するので、どんどんフォローしてください。



です。(笑)

そして、もう一つの特徴は毎日解約できること。リーマンショックの時に多くのヘッジファンドが資産凍結状態になり、解約できない状態になりました。このファンドは、毎日解約できます。

個人の選択肢を増やしたい

藤沢 こうしたファンドは、個人投資家の資産形成に必要でしょうか。例えば、日本株の長期投資だけでは厳しい？

竹村 考え方が全く違うんです。長期投資を唱える人は、「10年、20年保有すれば上がるんだから目の細かいぶれは気にしないで行きましょう」と言いますよね。

Soko ga Kikitai

でも、リーマンショックみたいなことが起こると、短期で3割、4割やられてしまう。それで「気にするな」と言っていていいんですかと。私たちは、それはダメだという所からスタートしているんです。

藤沢 すごくニーズがあると思います。
竹村 もちろん、積極的にリスクを取れる人なら、もっと高いリターンを狙えるファンドを選ぶのもいいと思います。ただ、「こういう選択肢もあるよ」と、個人投資家に知ってもらいたいです。

藤沢 前提が違ってますね。
竹村 そうです。特に、日本のように右肩上がりの成長が望めない国の場合、「長期で持っても上がらないリスク」を考えなければいけません。

それに、長期投資を考えていても急に資金が必要になる可能性もあります。そのために「いつでも解約できて、その間に大きな下ぶれをしない」という商品があった方がいいのではないのでしょうか。

世の中には、日本の個人投資家が知らないような良質な商品や運用方法がいっぱいあります。例えば、海外には、飛び抜けて優秀な新興国ファンドなどもありますが、こうした商品もいざ紹介していきたいですね。

藤沢 直販をやる予定は？
竹村 近々、直販もやりたいと考えています。